

平成28年度兵庫県立龍野北高等学校（定時制課程） 学校関係者評価結果報告書

1 中長期目標

【目指す学校像】・地域に愛される日本一の定時制
【目指す生徒像】・自信に満ち 自己を律し 共に生きる生徒

2 本年度の重点目標

(進取～学び～) ・「わかる喜び」から学習に対する自信と意欲を高める ・基礎・基本の学習の徹底と生きる力を育む
(練磨～自立～) ・教育活動を通じた有能感(やればできる) ・自己統制力(自らを律する)の育成 ・定時制生徒としての基本的生活習慣の確立
(貢献～共生～) ・認め合い助け合う生徒集団の育成 ・地域社会と共に生き、ふるさとに貢献できる生徒の育成

3 総合的な自己評価

今年度より、学校関係者評価委員会を全日制と一緒に行うことになり、学校関係者評価結果報告書について形式が昨年度と大きく変わり、よりわかりやすいものとなった。

校訓を基に学校重点目標を掲げ、重点目標にリンクさせ評価項目(実践項目)を設定している。3つの重点目標に対し各部、各学年、各教科ごとに評価指標を決めている。重点目標の一つである「進取～学び～」においては、具体的な目標を2つ掲げ、教務部を中心に各教科との連携を図り、基礎・基本学習の徹底と学習に対する自信と意欲を高めるための評価項目を各教科で設定している。「練磨～自立～」においては具体的な目標を3つ掲げ、生徒指導部を中心に、各部、各学年との連携を図り、自己有能感や自己統制力の育成と基本的生活習慣の確立を図るための評価項目を設定している。「貢献～共生～」においては、具体的な目標を2つ掲げ、総務部を中心に各部、各学年との連携を図り、認め合い助け合う生徒集団の育成やふるさとに貢献できる生徒育成のための評価項目を各部、各学年で設定している。今年度は昨年までと違い、全職員が全評価項目について自己評価を行い、中間評価時点で見直しを図るなど、学校改善に繋げることができた。

最終評価については、「B」評価(おおむね達成できた)が多い結果となり、中間評価では見られなかった「A」評価(達成できた)もいくつか見られた。今後は、より一層高い目標を掲げ、評価項目の見直しを図るとともに更なる向上を目指し取り組んでいく必要がある。一方で、実践項目や評価指標の達成度が低い部署もあり、その原因を考えるとともに、評価項目、評価指標の見直しが必要である。

定時制生徒として、学年が上がるにつれ、昼働夜学ぶという仕事と学校の両立が図られ、規則正しい生活習慣が確立されている。1・2年生における生活習慣の確立が課題といえる。

学習面においては、全教科の最終評価が「B」または「A」であり、生徒に「できる」を実感させることができるよう各教科における授業の工夫が概ねなされているといえる。

挨拶については、登下校や日ごろの学校生活の中で意識付けを行い、少しずつではあるが浸透してきている。ただし、コミュニケーションがとれない生徒について日頃から声かけを行い、粘り強く継続した指導が必要である。

学校行事への参加については、自ら運営に携わる機会を与えることで意識の改善が図られた。来年度の創立10周年に向け、生徒が自主的に考え行動し、主体的に取り組めるよう生徒とともに考え、取り組んでいく。

地域行事にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚もでてきている。

進路についても、就職・進学とも最後まで粘り強くチャレンジし、希望に応じた進路実現を果たしている。ただし、就職については、達成率が100%になるよう導いていく必要がある。

来年度は全職員が評価しやすいように自己評価について改善を図る必要があり、評価項目、評価指標についての見直しを図っていく。

4 総合的な学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方針は、妥当であるといえる。

重点目標『「進取～学び～」の①「わかる喜び」から学習に対する自信と意欲を高める②『基礎・基本の学習の徹底と生きる力を育む』について、基礎基本に重点を置いた学習の進め方や各教科の先生方の授業形態(グループワークやレポートの作成等)・授業教材の工夫等により目標が概ね達成できていることは十分に評価ができる。このような取組みにより、生徒が「できる」という自信と喜びを実感し、学習に興味や目標をもてるように継続した取り組みが必要とされる。また、わかる授業を目指して、教材プリントに工夫を凝らすことで、教員の授業力・指導力のアップに繋げ、常に振り返りや改善を図っていくよう努力する必要があるといえる。

重点目標『「練磨～自立～」の①教育活動を通じた自己有能感②自己統制力の育成③定時制生徒としての基本的生活習慣の確立』について、学年が上がるほど定時制生徒としての自覚が生まれ、昼間働き夜学ぶという定時制生徒としての基本的生活習慣が確立されているところは十分に評価できる。この基本的生活習慣が確立することで学校生活が充実したものとなり、それらが学校行事に対する取り組み姿勢へと反映される。中途退学者についても下級学年に多くみられるので、下級学年における勤労学生としての基本的生活習慣の確立について検討が必要である。また、学校生活を充実させることが生徒の心身ともへの発育に繋がり、生徒の心の成長により、将来に対して目標を持つことができ、それが生徒個々の進路実現へと繋がっていることがわかる。上級学年においても現状に満足せず更なる向上を目指す姿勢が求められる。

重点目標『「貢献～共生～」の①認め合い助け合う生徒集団の育成②地域社会と共に生き、ふるさとに貢献できる生徒の育成』について、レザークラフトや和服制作に取り組み、伝統の継承と地域に根差した活動を行っているところは十分に評価できる。また、地域行事に参加することで地域社会の一員であることの自覚も芽生え、今後も継続して地元で活躍し、地域活性化に貢献する生徒を育てる努力が必要である。学校生活においても、挨拶やマナー等を身につけ、その必要性について理解し、主体的に取り組めるよう方策を考えていく必要がある。そして、元気のある、活気に満ちた学校づくりを目指して更なる努力と発展を期待したい。

次年度に向けて、現状の実施項目、評価指標ともに細かく分かれすぎて評価しにくいところもあるので、「分かりやすい目標を設定し、誰もが評価しやすい項目を設定すべきである」といった評価方法の改善について検討していくことが望まれる。

5-1 重点目標ごとの自己評価 (A 達成できた B おおむね達成できた C やや達成できた D 達成できていない)

重点目標	担当部署	項目内容または評価指標	達成状況	取り組み状況及び改善策
進取 学び	教務部	基礎基本を大切にし、学習に対して「できる」という自信と喜びを実感できるようにする。	C	昨年度に引き続き、基礎・基本学習の徹底と学習に対する自信と意欲を高めるため、以下3点について教務部、各教科が連携を図り取り組んだ。 1 基礎・基本学習の定着を図る。 (1) 学び直しをする。 (2) 反復学習を繰り返す。 (3) 個に応じた指導を行う。 2 「できる」という自信と喜びを実感できるようにする。 (1) 授業や定期考査について目標をもって取り組ませる。 (2) 商業科における各種検定試験に積極的に挑戦させる。 (3) 授業での学びを「龍北工房」等様々な場所において実践する。 生徒の意欲を高めるため、授業で使用する教材(プリント等)の工夫や主体的に授業に臨めるような授業形態(グループワーク、発表やレポートの作成等)を取り入れ、少しずつ学習に対する意欲と自信が持てるようになっていく。さらに各教科・学年が連携して継続的に粘り強く取り組んでいく必要がある。 3 教員の授業力の向上を図る。 公開授業週間を2回実施し、教員の授業改善の機会とした。教科を超えた教師間での授業参観を実施することで指導力や授業改善の推進に役立った。今年度の反省を踏まえ、来年度は、全日制とも連携を図り、更なる授業改善に取り組んでいく。 以上のような取り組みの結果、様々な授業において基礎基本の定着が図れつつある。今後も、生徒が学習に対して「できる」という自信と喜びを実感できるように各教科で取り組んでいく。
		公開授業週間とオープンハイスクールの実施により、生徒が授業態度を見直す契機とし、また教員の授業改善の機会としても活用する。	C	
	商業科	基礎基本の定着を図るために、各種検定試験を学習到達度の目安とし、積極的に挑戦させる。また、それらの知識や技術を活かして、地域の活性化につながる取組をする。	B	
		ビジネス教育を推進し、地域社会の発展に寄与する生徒を育成する。ひょうごの達人招聘事業を活用し、接遇マナー等を含めたコミュニケーション能力を身につけさせる。	A	
	国語科	基本的な読解力と国語的な常識を身に付けるために、教科書や問題集の学習を徹底する。	B	
	数学科	授業へ積極的に参加できるよう、生徒自身が考えを発言する機会を設け、考えを整理・表現できるようにする。また、整理・表現する中で基礎学力の定着を図る。	B (B1)	
	地歴・公民科	社会における基礎的な知識・思考を身に付けさせる。社会的な事象に関して、興味を持ち、自分の意見を表現できるようにする。	B	
保健体育科	体育実技-自主的なスポーツ活動が身に付きつつある中で、ルールを学びより一層の興味・関心を持たせていく。生徒集団の中で自己の協調性と行動力を持たせる。保健-心身ともに社会の一般的な知識を身につけさせ、生活の中で実践することができるようにする。	B		
英語科	基礎・基本の学び直しに意欲を持たせ、わかる喜びを感じさせる。英語学習を通して、コミュニケーションへの意欲を高める。	B		

6-1 重点目標ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方針についての評価
本年度最終評価です。 1 目指す学校像「地域に愛される日本一の定時制」に対する回答とは思いがたい。 <教務部> ・最終評価のアンケートを評価後にどう評価しますか。年度当初に実施後、実践が実践項目、評価指標となりませんか。 ・最終評価にあったアンケートの内容がわからないので添付していただきたい。 ・最終評価に約半数の48%の学習意欲が高まった要因は何でしょうか。大変良いことだと思うのですが、次に継続できるように明瞭にお願いします。 ・評価指標にある中学校、保護者、非常勤以外に全日制とは、どのように連携したのか。 ・公開授業週間が目標より1回少ない理由も反省もないのはいだけない。 ・評価指標の全日制教務部との連携による教員からの意見の回答もない。来年の取組改善案について、本年度の改善もできず安易な方向に行っています。以上のことから教務部の最終評価③Bは遺憾であります。日本一は何の日本一か、目的、手法、実践、反省、喜び→実践の繰り返しが必要。 <商業科> ・目的、実践、反省、喜びの繰り返しの評価が短い文章の中にまとまっています。卒業式に生徒自ら行事によりクラスがまとまり個々が成長していますが、恒例である「町ちゅう美術館」への不参加であったが地元から期待が大きかった。非常に残念。町ちゅう美術館の縁の下から支えてたのが定時制であるが全日制に理解、参加できるよう調整するよう努めていただきました。龍北工房は高校生の店です。学校教育です。基幹から改善が必要で ・評価指標にある意識付けや授業での学びをどのように資格取得に結び付けているのか。 ・30% (不合格者)の人に補習等で指導の工夫をすることが意識付けとなりうるのか? ・「龍北工房」の店舗運営は、実践型教育の場として意識は高くなっていると思います。学年全生徒への共通理解や底上げはできているのでしょうか。 ※国語科、数学科、地歴・公民科の反省点はないのか。1年を通して良い授業で生徒も成績が良かったのか、改善するところが無いということですか。 <国語科> ・指標「漢字検定5級程度の知識」を身につけさせることができたかの評価はどうですか。 <数学科> ・実践項目、評価指標である各授業で積極的に参加し、1人1回発問は出来たか否かの評価はどうか。 <地歴・公民科> ・社会的な事象に関して興味を持ち自分の意見を表現できたか。 <保健体育科> ・目標に対する過大評価もなく生徒の心を把握され、無理のない授業をされているのを拝見しました。 ・日常から取り組みやすい内容で高い評価となっている。より高度に取り組んでいただきたいと思ひます。 <英語科> A L Tの授業のことは反省点はない、改善点はないということか。

5-2 重点目標ごとの自己評価 (A 達成できた B おおむね達成できた C やや達成 D 達成できていない)

重点目標	担当部署	項目内容または評価指標	達成状況	取り組み状況及び改善策
練磨 自立	生徒指導部	仕事と学校生活を両立した健康的で規則正しい生活習慣を身に付けさせ、中途退学者を減少させる。	C	教育活動を通して自己有能感を養い、定時制生徒としての基本的生活習慣を確立させるために生徒指導部、進路指導部、保健部の各部と各学年が連携を図り取り組んだ。 今年度は中途退学者が9名(H28.2.13日現在)と多く、退学者の多くは、欠席が多い不登校によるもので、家庭との連携がきわめて困難であった。定時制生徒として、昼働夜学ぶという規則正しい生活習慣の確立と自己実現に向けた粘り強い心を育てる必要がある。来年度も日々の挨拶や声かけを積極的にを行い、担任との連携を密にして生徒指導に取り組んでいく。 学校行事に対する意識の向上は生徒会を中心に生徒自らが運営に携わることで改善が見られた。来年度も創立10周年に向け、生徒が自主的に考え、主体的に取り組めるように生徒とともに取り組んでいく。
		体験活動の中で人に認められ感謝される喜びを味わわせ、また内発的動機付けを強めることで困難を克服したくましく生きる力を育む。	B	
	1年	学校生活を送る礎を築けるようにする。遅刻せずに登校し、1日の学校生活をスムーズに送れる体制を整える。	D	
		勤労学生としての自覚をもち、学業と仕事の両立を図るため、就業率を向上させる。	D	
2年	生活習慣の定着を図り、2学年としての意識を向上させる。	C		
	行事の中でそれぞれの役割を自ら見つけ、クラスの団結力向上を図る。	C		

6-2 重点目標ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方針についての評価
<生徒指導部> ・最終評価について、先輩と後輩との連携をより強めていただきたい。素晴らしい先輩からメッセージを多く発信していただき、生徒が自主的に考える力を高めて欲しい。 ・退学者が多いのは担任の指導力、努力が必要。生徒指導部だけの問題ではない。担任と生徒のコミュニケーションの次に生徒指導部であるべきです。 ・卒業式で行事ごとにまとまり成長した旨生徒会長が自らの言葉で語った。生徒が楽しみにしていた町ちゅう美術館について参加できるよう全日制と調整すべきです。 ※各学年、各部における評価指標で90%にしている意味を教えてください。聞いているかもしれませんがすみません。 <1年生> ・遅刻を無くすことはどうか。SHRとは何か不明。最終評価のSHRの出席率82%と評価指標(出席率90%)との差8%の理由と来年度の改善策はないのか。どう評価するか疑問である。 ・勤労学生としての自覚をもたすことはできたのか。就業率の指標との差23%の原因と対応策、どんな努力をしたのか。退学者は何故でたのか。熱心に真剣に対応したのか。 <2年生> ・最終評価のSHR出席率が不明。 ・実践項目にある役割や団結力向上について評価がなされていない。さらに向上するには?

重点目標	担当部署	項目内容または評価指標	達成状況	取り組み状況及び改善策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
練磨 （自立）	3年	仕事との両立の中で、行事・授業を通して学校生活をより充実したものにする。	B	<p>今年度の進路指導については、学年を中心に生徒との面談を繰り返し行い、生徒の希望に応じた進路選択を重視し、それが最後まで頑張る原動力となり進路実現に繋がった。就職・進学ともにほとんどの生徒が進路を達成し、特に、進学については、3月の一般入試までチャレンジするなど粘り強さも見られた。</p> <p>来年度も個々の生徒の希望に応じた進路指導を行い、講演会やガイダンスなどを計画的に進め、生徒の進路意識の向上を図っていく。</p> <p>進路結果 就職：10名（新規就職） 進学：4年制大学3名、専門学校5名</p> <p>就業体験についても企業との連携を図り、できるだけ生徒の希望に応じた就業先の選択を心がけ、勤労観を育むことができた。来年度は事前指導を充実させ、就業体験に対する意識付けをしっかりと行う必要がある。そして、就業体験をより一層意義深いものにしていく。</p> <p>保健部においては、学年との連携を密にし、心身ともに日頃の生徒の健康管理に努めた。また、様々な講演会を通して、アルバイトと学校の両立を図り、学校生活を充実したものにするために自己の健康管理についての知識を高めることができた。来年度も講演会や講習会を実施し、自他の健康に興味を持たせるとともに生活習慣の確立を図っていく。</p>	<p>学校自己評価の結果及び改善方策についての評価</p> <p><3年生></p> <ul style="list-style-type: none"> SHRの遅刻を上級生としての意識の向上は？ 最終評価の主語は？（①目的②手段、方法③結果④改善の繰り返しです。） 4年生は何故目的達成しましたか？ 3学年の評価指標にあるSHRやLHRの位置づけがわからない。指標のキーとなる理由は？ <p><進路指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制のキャリアとは何ですか。不明。 1年生のアルバイト就業率が達成できなかったことに対する反省点はないのか。改善策は？ 2年生の就業体験をとおして、生徒は何を反省し、喜び、どう成長したのか。 <p><保健部></p> <ul style="list-style-type: none"> 最終評価について、指標に対する最終評価ができていない。目標をあげて「行った」「参加できた」ではわかりにくい。 最終評価に「積極的に参加できた。」とあるが、何%以上か。
		将来への展望や目標を持たせ、身近に迫りつつある進路決定に向けて努力する姿勢を養う。	B		
	4年	四年間培ってきた定時制生徒としての生活習慣を卒業後の社会生活にリンクできるよう日頃の生活態度を見直す。	A		
		進路選択において建設的に考え、自己の進路実現プラス、「やれる」ではなく「やりたい」という強い意識を持たせる。	B		
	進路指導部	全学年で段階に応じた進路指導を行い、キャリア意識を向上させる。	B		
		第2学年において受入れ事業所での5日間の就業体験を全員で実施し、職業観・勤労観を育む。	B		
	保健部	自他の健康に興味を持たせ、自己管理能力を身につけさせるとともに、生活習慣を確立させる。	B		
		緊急時等に対応できる正しい知識を身につけさせ、自己の健康への管理・責任能力を高める。	B		

5-3 重点目標ごとの自己評価 (A 達成できた B おおむね達成できた C やや達成できた D 達成できていない)

重点目標	担当部署	項目内容または評価指標	達成状況	取り組み状況及び改善策
貢献 （共生）	総務部	年間行事で、学校近隣の地域住民との触れ合う機会を持つとともに、日頃よりあいさつ運動を行い、信頼される人物像を生徒に指導する。	C	<p>認めあい助け合う生徒集団の育成、地域社会と共に生き、ふるさにと貢献できる生徒を育てるために、総務部、教務部、生徒指導部、人権教育部の各部と各学年が連携を図り取り組んだ。</p> <p>挨拶について登下校や日ごろの学校生活の中で生徒が主体的にできるように取り組んだ。学校行事においても各学年とも創意工夫を凝らし、クラスの一員としての自覚と集団としてのまとまりができてきた。また、教員の日頃の声かけにより、個人差はあるが、HRや授業、登下校や休み時間等でコミュニケーションがとれつつあり、表情も明るくなり、表現力が豊かになった生徒もいた。来年度も挨拶や各学校行事について、生徒がその目的を理解し、学年との連携を図りながら、生徒が主体的に活動できるように取り組んでいく。また、周囲に対して打ち解けていない生徒について、コミュニケーションとれるよう日頃から声かけを行い、継続した指導を行っていく。</p> <p>いじめ事案については今年度もなかった。いじめについては、継続した見守り指導を行うことはもちろん「いじめはどこにでもありうる」という観点から担任、保護者、関係機関等と連携を図りながら安心して安全な環境づくりに努め、未然防止を図っていく。</p> <p>今年度もふるさと貢献事業としてレザークラフトや和風制作に取り組み、伝統の継承と地域に根差した活動を行った。オータムフェスティバルなど地域行事に参加することで、地域社会の一員であることの自覚が芽生えた。今後も地域行事に積極的に参加する機会を増やし、学年と協力しながらふるさとに貢献できる生徒育成を目指す。</p> <p>学期に1回実施するコミュニケーションウィークを活用し、懇談や日々の関わりを通して、生徒の内面理解に努めた。人権映画や教員向けの研修会を実施することで、より一層人権意識の向上を図った。来年度も生徒指導に役立てられるよう職員研修を充実させる。人権映画鑑賞についても日頃の学校生活に活かせるように指導していく。</p>
		個々の生徒が仲間意識を積極的に考え、協調性をもった行動がとれるように意識づける。	C	
	教務部	ふるさと貢献事業の内容を充実させ、伝統を継承する誇りを持ち、地域に根ざした活動を展開する。	C	
	生徒指導部	自発的、自治的な活動の中で規範意識を植え付け、共生の心や生徒相互が高め合うことのできる、地域から信頼される生徒集団をめざす。	A	
		低学年から地域行事に参加させ、地域社会の一員であることを自覚させるとともに、地元たつで活躍する卒業生のように社会貢献できる人材の育成に努める。	A	
	1年	学校行事を通してクラスメートと協力して活動を行い、自他共に認め合えるような雰囲気を作っていき、そして、学校行事に積極的に参加する姿勢を作る。	B	
	2年	学校生活・行事を通して、他者を理解し、協力し合える集団作りを目指す。	B	
	3年	お互いを認め合い、高めあう生徒集団を作る。	B	
	4年	本校に学ぶ生徒として自覚と責任はもちろん、母校に対する愛着と誇りを持てる生徒集団を目指す。	A	
	人権教育部	あらゆる教育活動を通して正しい人権感覚を養う指導を行い、身近にいる他者を尊重し、共に進んでいこうとする生徒集団を育てる。	B	
教職員が、今まで以上に人権感覚を向上させる意識をもち、自校の人権課題を解決する力を身に付ける。		B		

6-3 重点目標ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶が小さいと前回に改善案があったが、取り組んだ成果はどうか。住民からどのような声を聞けたか。 仲間意識を積極的に協調性をもった行動への意識付けはどうなったか。 最終評価について、挨拶やコミュニケーションがとれるようどのような活動を行っているのでしょうか。学校行事や、地域行事に参加し、いろいろな場面で挨拶等コミュニケーションが必要とされます。そんな時の先生の指導方法がよくわかりません。その点を教えていただければと思います。 <p><教務部></p> <ul style="list-style-type: none"> 町ちゅう美術館を何故書かないのか。 <p><生徒指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> 行事で生徒のスマホや音楽のイヤホン、むだ話があるのに主幹や低学年の担任が積極的に注意をしないのはなぜか。注意しても直さない生徒をそのままにするのは何故か。 <p><1年生・2年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 参加率が前年度比何%でどれだけ向上したのか。 <p><1年生・2年生・3年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標に対しての最終評価でしょうか？ <p><3年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 3学年の評価指標に協同的な作業を取り入れとあるが、どのように団結させ、どのように意識付けさせようとしているのか教えて欲しい。 <p><4年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 4学年の素晴らしいさをどのように後輩に伝えたらよいか。どのように伝えようとしているか。 <p><人権教育部></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標に対しての最終評価でしょうか？ 実践項目に「人権課題を解決する力を身につける」とあるが、身についたのか？ <p>※個々に目標を決め！ 指標も定め！ 最終評価！ 反省をして 次なるステップに向かう！ 先生方の日ごろの努力に 敬意と感謝を致します。</p> <p>学校行事には機会ある毎に参加させていただき、近距離で生徒たちの活動！成長を見せて頂いています。生徒達は先生方の細やかな指導を受け、特に「入江組」「龍北工房」など生徒達は成長し、次々と巣立っています。10年目を迎える学校の外部から見える環境は、開校以降変わらず！通学路の安全対策等々の改善が欲しいです。関係先との絡みも有り難いですが夜間通学路の安全等々改善に頑張ってもらっています。行事等に参加させて頂いている私は、特に今年卒業生20名の活動で大変元気をもらっています。校庭ネット、横断幕での活動の表示も大変に効果がありますが新宮支所等を利用して学校行事等々のアピール、広報をされては如何かと？近隣自治会には隣保回覧等々もしては？4学校内行事特にボランティア活動など外部に知ってもらうことで活動する生徒達の土気も大いに上がるのではないかと生徒達への応援と活性化を目指すため、提案致します。</p> <p>※全体的に1年2年はこれが先生としての最終評価でしょうか。目的に対する評価と反省、改善策が基本ではないでしょうか。これで、なんで日本No.1を目指しますか。理解に苦しみます。</p>